

韓国・中国の風

「やまなし青年海外セミナー」に参加して



佐藤 由香

学生時代、中国語を勉強していた私は、大学三年生の時初めて中国を訪れ、北京大学で数ヶ月を過ごしました。その時の思い出は写真と私の心の中に残っていて、もう一度、もう一度中国へ行きたいという思いがずっと胸の内にありました。

そんな五月のある日、所用で県庁に行った私は「やまなし青年海外セミナー」のポスターを見かけこれに応募したのです。

今回のセミナーの中で、特に、私が惹かれたことは、アジアの国、それも、韓国・中国の二カ国でホームビジット、ホームステイが出来るということでした。欧米諸国ではそれが珍しくない今日、アジアの国で一般家庭を訪問できるということは、このセミナーならではの体験だと思ったのです。そしてそれは現実となり、私にとって何にも変えることのできない貴重な体験となりました。

まず韓国での姜さん宅。日本語の出来るおじいさんの語らい。庭での卓球、楽しい夕食、娘さんのピアノ演奏と時間が流れるなか、もう帰らなくてはいけないことを

告げると「キョウ、トマッテイキナサイ。ナゼダメデスカ？」と何度も何度もそういつて握ってくれたおじいさん、手の温もり、絶対に忘れることはできないでしょう。そして中国での朱さん宅。何年ぶりかで使える中国語に私は嬉しく、はしゃぎ、又そんな私を笑顔で温かく持て成してくれたこと、感謝の気持ちで一杯です。夜遅くまで語り合ったにもかかわらず、



各々の国を担っていく私達がこういった機会に恵まれ大変短い時間ではありましたが語り合えたことは相互理解を深める上において、とても貴重なことだと思いました。

中国成都市においては、姉妹締結十周年ということもあり、ホテルから街並から「歓迎」という紅い垂れ幕があちこちにありました。式典パーティーには天野建知事を初め、沢山の代表者。今回このセミナーがどれだけ重要なものであるか改めて感じました。

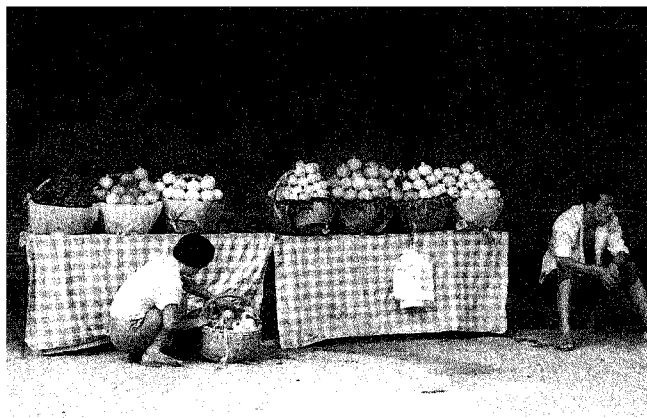
一枚のポスターがきっかけで、多くの人と出会うことができたこと。たった二週間だけなのに、一層中国、韓国に気がなり始めました。私にとってアジアは、まだ近くて遠い国であります。けれど、このセミナーをきっかけに少しずつ近づいていくことを、今は確信しています。

中国・韓国での研修や交流を通じて得た多くの仲間と共に、これから地域や職場で国際友好交流に大きく貢献していきたいと思えます。

終りに、セミナー参加にあたりお世話になった皆さま、私にこのようなすばらしい機会を与えてくださった都留市民会議の関係者の皆さま方に深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。



八月二十六日猛暑の中、私たちは、朝四時という早い時間にもかかわらず、期待と不安を抱え元気よく二週間の旅に出発しました。六月から三回の事前研修を終え、この日が瞬く間に来たという感じでした。



その他韓国の学生との交流合宿。四川大学の学生との自由行動。ここでは私達と触れ合った両国の若者達が自分の人生を前向きに考え何事にも憶せず夢と希望をもって生きているということに感銘を受けました。将来